

目指す学校像	子どもたちが嬉々として登校し充実感に満ちて家路につく学校 ~みんな友達 笑顔の原小~
--------	--

重点目標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な指導の充実 2 心身ともに安心・安全な学校生活の構築 3 CSとして学校、家庭、地域が役割を果たし連携し信頼し合う開かれた学校づくりの推進 4 風通しのよい職場づくりと、教職員とともに取り組む業務改善
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、概ね良好な結果である。 ○9割以上の児童が、授業を通してできるようになったことがあると達成感を感じている。 <課題> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果から、自分の考えをまとめることや既習事項を用いた回答に苦手意識がある児童が多い。 ○3割ほどの児童が、進んで発表することに苦手意識をもっている。 ○効果的に学びを進めていくために、発達段階に応じたタブレットの活用スキルを計画的に高めていく必要がある。	・学びのポイント(じ・し・や・く)の視点に基づく授業改善 ・シン・GIGA スクール構想の更なる推進	①教育委員会と連携し、指導主事から学びのポイントについての講話を聞く。 ②一人二回公開授業を実施し、互いの授業を見合うことで、学びのポイントの視点を授業実践に活用する。 ③学びのポイントを意識した単元計画の作成により、継続した研究にする。	①授業で学習課題や学習計画を児童が決める場面を設定できたか。 ②授業で仲間と協力して考えたり、仲間の考えを参考にしながら自分の考えをもったりする場面を設定できたか。 ③授業で学びを振り返り、新たな課題を見つける場面を設定できたか。						
2	<現状> ○児童アンケートでは「毎日元気に登校しています」の質問に対し、肯定的回答が94%である。 ○アンケート等を活用し、いじめの認知、認知、対応に繋げている。 ○児童のさまざまな困り感を把握し、保護者や関係機関と連携しながら、児童が安心して学校に居られる居場所づくり等を進めている。 <課題> ○校舎のリフレッシュ工事に伴い、教育活動を停滞させない環境の整備と、現状の環境下でも充実し、安全安心な教育活動を継続することが課題である。	・安全安心な学校生活の充実 ・教育環境の変化に伴う工夫改善	①児童の状況を、スクールダッシュボード等を活用しながら細やかに把握し、迅速に保護者との連携を図りながら、組織的に支援や相談を行う。 ②専門職による教育相談の調整や教育相談日の設定等を継続して行い、学校に相談しやすい環境を整備する。 ③Sola る一むを開設し、児童が落ち着いて過ごすことができるように空間の工夫や人的配置を充実させる。	①学校評価の児童アンケートの「学校に元気に通っている」への肯定的回答をする児童の割合が95%以上となったか。 ②学校評価の児童、保護者、教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が平均90%以上になる。 ③長欠児童の登校状況に改善傾向が見られたか。						
3	<現状> ○学校運営協議会において「豊かに関わる子どもたち」を目指すための具体的方策について熟議を重ね、地域の方々と児童とが交流する行事を実施した。 <課題> ○令和5年度は、学校公開の機会が限られ、学校評価のアンケートでも「判断できない」という回答が見られた。 ○学校公開の機会と情報発信を充実させ、保護者・地域に向けて更なる「開かれた学校づくり」を推進する必要がある。 ○コミュニティ・スクールの認知度を高め、保護者や地域の方々との関わりを増やしていくことが、今後の課題である。	・目指す児童像を具現化するための具体的方策の実践 ・目指す児童像を共有するための学校公開やICTの活用	①学校運営協議会で熟議を重ね、目指す児童像の具現化や学校課題改善に向けての方策を見出していく。 ②目指す児童の実現に向けた活動を推進するために、委員会や児童会等、児童も熟議に参加したりしながら、互いの顔の見える直接的な交流活動を実践する。	①昨年度実施の「七夕まつり」の成果と課題を含めて、地域と豊かに関わる子どもたちの姿を実現するための更なる活動を、熟議を通して具体的に検討し、SSN や地域等の関係団体の協力を得ながら実践することができたか。 ②学校評価の教員アンケートにおいて「学校と保護者、地域との連携」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上になったか。						
4	<現状> ○不断の授業改善に向け、教員一人ひとりが当事者意識をもって研修に臨んでいる。 ○学校全体としても個人レベルでも、働き方の効率化が進んでいる。 <課題> ○学校課題研修を効果的にを行い、日常の授業でのICTの活用の更なる工夫改善が求められる。 ○教員が「働きがい」や「やりがい」を実感することができる働き方改革を進めていく必要がある。	・学校課題研修の充実と業務改善策の具体化	①一人一人の教員が目指す児童像を理解し、その具現化に向けた授業を年間2回以上公開する。 ②教員が校内で自己研鑽ができる研修体制を整える。 ③業務改善委員会を毎月1回開催し、具体的提案を検討する。その内容を、全教職員で共有し実践する。	①目指す児童像とその具現化に向けた手立てを明確に位置付けた授業(教科等は問わず)を、80%以上の教員が1年間に2回以上公開することができたか。 ②学校評価における教職員アンケートの「意欲・資質向上」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上になったか。 ③業務改善委員会からの具体的な提案を、全教職員が共有し、実践するとともに、効果の検証を行うことができたか。						

